

山口県 教職教養実施問題速報 (2025 年 5 月 11 日実施)

出題傾向

山口県の教職・一般教養試験は、大問 6 問構成であり、そのうち 1 問は時事的な内容を含む教職教養と一般教養を併せた総合問題であった。小問単位では、教職教養が計 36 問（内訳：教職法規 8 問、生徒指導 8 問、教育原理 5 問、地域問題 6 問、教育時事 3 問、教育心理 4 問、教育史 2 問）出題された。一般教養は計 6 問出題された。全体として、各分野からまんべんなく出題されており、一部に記述式問題が見られたものの、難易度は比較的易しいものであった。地域問題の出題数が比較的多く、扱われている資料は比較的新しいものが中心である。

出題例

1 以下の(1),(2)の各問いに答えよ。

(1) 次の文は「生徒指導提要」(文部科学省 令和 4 年 12 月)の一部である。下のア～エの各問いに答えよ。

暴力行為の前兆行動の早期発見・早期対応は、校内連携型支援チームなどで対応することが基本となりますが、この段階でも必要に応じて関係機関等と連携することが大切です。

例えば、(①)等の障害を背景とする二次的な問題や精神疾患・(②)依存の症状としての粗暴な言動が疑われる場合には医療機関等との連携が、家庭に虐待や貧困の問題が疑われる場合には(③)や地方公共団体の福祉部門との連携が、地域の不良交友が懸念される場合には(④)との連携が考えられます。

ア (①)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 知的障害 2 肢体不自由 3 発達障害 4 視覚障害

イ (②)に入る適切な語句を答えよ。

ウ (③)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 児童相談所 2 子育て支援センター 3 児童養護施設 4 医療機関

エ (④)に入る適切な語句を答えよ。

(2) 次の文は「COCOLO プラン」(文部科学省 令和5年3月)で示された「目指す姿」である。下のア～エの各問いに答えよ。

- 1 不登校の児童生徒全ての(①)を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

 - ・一人一人のニーズに応じた多様な(①)が確保されている
 - ・学校に来られなくても(②)等で授業や支援につながるができる
 - ・学校に戻りたいと思った時にクラスを変えたり、転校したりするなど本人や保護者の希望に沿った丁寧な対応がされている

2 心の小さなSOSを見逃さず、「(③)」で支援します。

 - ・1人1台端末で小さな声が可視化され、心の不安や生活リズムの乱れに教師が確実に気付くことができる
 - ・小さなSOSに「(③)」で素早く支援することにより、早期に最適な支援につなげられている
 - ・教育と福祉等が連携し、子供や保護者が必要な時に支援が行われる

3 学校の風土の「(④)」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

 - ・それぞれの良さや持ち味を生かした主体的な学びがあり、みんなが活躍できる機会や出番がある
 - ・トラブルが起きても学校はしっかり対応してくれる安心感がある
 - ・公平で納得できる決まりやルールがみんなに守られている
 - ・障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合う雰囲気がある

ア (①)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 体験の場 2 居場所 3 学習教材 4 学びの場

イ (②)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 オンライン 2 地域人材の活用 3 家庭訪問 4 学習プリントの活用

ウ (③)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 地域との連携 2 チーム学校 3 スクールカウンセラーとの連携 4 保護者との連携

エ (④)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 醸成 2 特色化 3 見える化 4 顕在化

- 2 次の文は、「交流及び共同学習ガイド」(文部科学省 平成31年3月)の一部である。下のア～オの各問いに答えよ。

我が国は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える（①）の実現を目指しています。

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校(以下「小・中学校等」という。)及び特別支援学校等が行う、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、(②)を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。

また、このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、障害のある子供にとっては、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながるとともに、障害のない子供にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に(③)意識の醸成につながると考えます。

小・中学校等や特別支援学校の(④)等においては、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。

交流及び共同学習は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、この二つの側面を分かちがたいものとして捉え、推進していく必要があります。

交流及び共同学習の内容としては、例えば、特別支援学校と小・中学校等が、学校行事やクラブ活動、部活動、自然体験活動、ボランティア活動などを合同で行ったり、文通や作品の交換、コンピュータや情報通信ネットワークを活用してコミュニケーションを深めたりすることなどが考えられます。

これらの活動により、各学校全体の教育活動が活性化されるとともに、子供たちが幅広い体験を得、視野を広げることで、豊かな(⑤)に資することが期待されます。

ア (①)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 共生社会 2 情報化社会 3 バリアフリー 4 連帯社会

イ (②)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 多様性 2 個性 3 創造性 4 社会性

ウ (③)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 当事者 2 支え合う 3 励まし合う 4 規範

エ (④)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 学習指導要領 2 管理規制 3 学習の手引き 4 学校保健計画

オ (⑤)に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えよ。

語群 1 知識及び技能の習得 2 自己実現 3 人間形成 4 人間関係の構築

3 「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」(文部科学省 令和 6 年 12 月)で示されている教育における生成 AI の利活用についての説明として適切でないものを次の 1～5 から選び、記号で答えよ。

- 1 学校現場において、一般向けの汎用的な生成 AI サービスが利活用可能な状況にあるが、1 人 1 台端末の標準仕様であるブラウザや学習支援ソフトウェア、普段利用する検索エンジン等には組み込まれる予定はない。
- 2 「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、生成 AI の出力結果を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要である。
- 3 生成 AI の仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められる。
- 4 生成 AI と人間との関係性を対立的に捉えたり、必要以上に不安に思ったりするのではなく、生成 AI は使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得るものと捉えるべきである。
- 5 児童生徒の学びにおいては、学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するべきであり、生成 AI を利活用することが目的であってはならない。

●●● 解答・解説 ●●●

1 (1) ア 3 イ 薬物 ウ 1 エ 警察 (2) ア 4 イ 1 ウ 2 エ 3

解説 (1) ア 文脈において、「粗暴な言動」が障害を背景とした「二次的な問題」として表れる例として最も適切なのは「発達障害」である。発達障害の特性によってストレスや誤解が生じ、それに起因する行動問題が発生することがあるためである。イ 「精神疾患・() 依存の症状としての粗暴な言動」という記述から、依存症が原因で攻撃的な行動が見られる場合が想定される。この文脈で該当するのは「薬物依存」である。薬物乱用は精神状態に著しい影響を及ぼし、暴力的行動を引き起こすことがあるためである。ウ 「家庭に虐待や貧困の問題が疑われる場合」に対応する機関として適切なのは「児童相談所」である。児童相談所は児童福祉法に基づき、虐待や養育困難等の問題に対応する専門機関である。エ 「地域の不良交友が懸念される場合」には、非行や犯罪への関与が懸念されるため、地域の治安維持を担う「警察」との連携が必要となる。警察は少年補導や非行防止活動において学校と連携する機会が多い。(2) ア 不登校の児童生徒に対して必要なのは「学習機会」である。「多様な()が確保されている」という表現から、「学びの場」という語が最も適合する。これは学校に限らず、教育支援センター、ICT 活用などを含む広義の学習空間を指している。イ 「学校に来られなくても()等で授業や支援につなげることができる」手段として、現在最も活用されているのは「オンライン」である。遠隔での学習やカウンセリング等の支援を可能とする方法として普及している。ウ 「小さな SOS に()で素早く支援」とあるように、複数の教職員や関係機関が連携して対応する体制を意味している。ここで最も適切なのは「チーム学校」であり、これは学校内外の人的資源が協働して生徒指導や支援を行う体制を示す用語である。エ 「学校を安心して学べる場所にする」ために必要なのは、望ましい風土の「見える化」の形成である。

2 ア 1 イ 4 ウ 2 エ 1 オ 3

解説 ア 「障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える()社会」という文脈から、該当するのは「共生社会」である。「共生社会」とは、多様な背景や特性を持つ人々が、互いに認め合い、共に生活する社会のことを意味し、文部科学省の各種施策においても中心的な理念として位置づけられている。イ 障害のある子供とない子供が共に活動することにより育まれる力として、「社会性」が最も適切である。「社会性」とは、他者との関わりを通じて身につける協調性や思いやり、ルール意識などを含む能力を指し、共生を目指す教育活動において重要な資質である。ウ 「障害のある人と共に()意識の醸成につながる」とあるから、文脈に合うのは「支え合う」である。共生社会の形成においては、他者を理解し、互いに支援し合う態度や行動の育成が求められるため、「支え合う意識」が自然な表現となる。エ 交流及び共同学習を教育課程の中に位置付ける根拠となる文書は「学習指導要領」である。学習指導要領は、文部科学省が定める教育課程の基準であり、学校教育活動全般に関わる方針を示している。したがって、交流及び共同学習の実施が定められる文書として最もふさわしい。オ 「視野を広げることで、豊かな()に資する」とあることから、ここに入るのは「人間形成」が最適である。人間形成とは、人格的な成長や豊かな人間性の涵養を指し、教育活動全般の最終的な目標でもある。交流及び共同学習の効果として期待される内容にも合致する。

3 1

解説 1 適切ではない。ガイドラインでは、生成AIがすでにブラウザや検索エンジン等に組み込まれている傾向があることを前提とし、今後それらをいかに適切に教育活動へ取り入れていくかが課題であると述べられている。 2 適切である。生成AIは常に正確な解を導き出すとは限らないため、出力内容を批判的に検討し、最終的な判断と責任を人間が担うという基本姿勢が重要である。 3 適切である。教師は、生成AIの仕組みや特性、リスクを理解し、適切に活用するための一定のAIリテラシーを身に付ける必要があるとされている。 4 適切である。生成AIを脅威や対立関係として捉えるのではなく、その使い方次第で人間の能力を補完・拡張し、可能性を広げる有用な道具になり得るものとして受け止めるべきである。 5 適切である。生成AIの利活用は目的ではなく手段であり、児童生徒の資質・能力の育成や教育活動の目的達成に資するかどうかを吟味した上で利活用されるべきである。